

27PE-am006

早期体験学習の取り組みと評価

○上島 秀樹¹, 初田 泰敏¹, 川西 園世¹, 廣谷 芳彦¹, 名徳 倫明¹, 池田 賢二¹, 中村 雅司², 小川 雅史¹(¹大阪大谷大薬, ²大阪大谷大学人間社会学部)

【目的】6年制薬学教育において、1年生の早期に、病院薬剤部、保険薬局、製薬企業などを見学することは、具体的な目標を持って薬剤師技能や態度を学ぶ上で貴重な体験となり得る。本学では、平成18年度より早期体験学習を開始した。一方、受け入れ病院および保険薬局を対象に年3回地域連携学術交流会を開催し、地域薬剤師との連携を図ってきた。今年度は早期体験学習さらなる内容の充実を目的に、早期体験学習前後の2回を対象に、アンケート調査を行い、学習効果を確認した。

【方法】早期体験学習に先立ち、専門家によるマナー講習会および実務教員による事前研修会を開催し、見学目的や体験学習の目標を明確にした。実施に際しては、全教職員が参画することとした。受け入れ施設数として、34施設の病院、保険薬局は大阪府南河内地区の延べ73店舗、3社の製薬企業に協力頂いた。また、アンケート調査の実施は、学内webシステムを使って各自が端末に入力するアンケート集計システムを新たに構築した。

【結果】マナー講習会では、『身だしなみ』の大切さが分かってよかったとの感想が多く聞かれた。早期体験学習後は、保険薬局がこんなに忙しい職場だと思っていなかったなどの感想が聞かれた。また、新たに構築したアンケート集計システムを導入することで、リアルタイムでのアンケート未回答の学生の把握が可能になり、さらに、集計時間が大幅に短縮された。

【考察】よい経験は、よいモチベーションを育てることから、協力施設と教わる学生との共有関係が継続していくよう早期体験学習のさらなる充実を目指したい。